地域の祭りでりんご販売

黒石青果センターは11月22日と23日、黒石市の「第34回黒石りんごまつり」でりんごの販売を行いました。県内各地から訪れる消費者にＪＡ管内で栽培されたりんごの魅力を伝えることを目的としています。

りんごは贈答用、特選品の「サンふじ」（1㌔／10㌔）、家庭用サンふじ（1㌔／20㌔）などを販売し、２日間で600箱を販売。

購入した来場者は「ＪＡのりんごはおいしいので、毎年買うのを楽しみにしている。家族と一緒に食べたい」と話しました。

来場者が購入したりんごを運ぶ職員

ジャンボおにぎり完成

11月16日、藤崎町の「第13回ふじさき秋まつり」で恒例のジャンボおにぎりづくりを行いました。県のブランド米「はれわたり」10俵分（約600㌔）を使用し、常盤支店管内のときわ良質米生産部会の部会員や、女性部員ら15人が作業を行い完成させました。

炊きあがった米をピラミッド型の木枠に詰め込み形を整え、仕上げに藤崎町の合併20周年を祝う文字が切り取られたのりを、同町の平田博幸町長がおにぎりの正面に貼り付けて仕上げた後、万歳三唱で完成を祝しました。

完成を祝う関係者ら

シャインマスカット若木剪定会

ぶどう生産部会（齋藤晴彦部会長）は11月25日、尾上地区の園地でシャインマスカットの新規作付者を対象とした若木剪定会を開きました。

剪定会では、青森県産業技術センターの職員が講師を務め、若木の特徴や剪定作業のポイントを、実際に枝を切りながら説明しました。

剪定作業のポイントを確認する参加者

令和７年産桃精算報告会

青果部は11月21日、本店で令和７年産桃精算報告会を開きました。今年産の販売額は１億6812万円（前年比92.2パーセント）、入庫数量は４万256箱（前年比86.2パーセント）となりました。

令和７年産は、干ばつ傾向で生育の遅れや着色不足などにより等級下落が見られたが、糖度が高くなったことが高評価につながったことや、市場関係者の努力もあり、原箱単価は3214円（前年比105.9パーセント）になりました。

販売額などを確認した精算報告会